

『ユニオンファンド』

商品分類（追加型投信／内外／株式）

交付運用報告書

第8期（決算日2016年9月30日）

作成対象期間：2015年10月1日～2016年9月30日

第8期末（2016年9月30日）	
基準価額	19,893円
純資産総額	4,151百万円
第8期（2015年10月1日～2016年9月30日）	
騰落率	0.6%
分配金合計	0円

※基準価額は、1万口当たりで表示しています。

※純資産総額は、単位未満切捨てで表示しています。

※騰落率は、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

- ◎ 交付運用報告書は、運用報告書（全体版）に記載すべき事項のうち重要なものを記載した書面です。
- ◎ 当ファンドは、信託約款において運用報告書（全体版）に記載すべき事項を電磁的方法により提供する旨を定めています。運用報告書（全体版）は、下記のホームページの「運用状況」から閲覧およびダウンロードすることができます。
- ◎ 運用報告書（全体版）は、受益者の方からのご請求により交付されます。交付を請求される方は、下記お問い合わせ先までお問い合わせください。

本書の記載内容等に関するお問い合わせ先

ユニオン投信株式会社 業務管理部

電話番号：0263-38-0725

受付時間：午前9時～午後5時

（土日祝日、年末年始を除きます。）

ホームページ：<http://www.unionam.co.jp/>

受益者のみなさまへ…

平素は格別のご愛顧を賜り厚くお礼申し上げます。2008年10月に基準価額10,000円、純資産総額108百万円でスタートした当ファンドは、2016年9月30日に基準価額19,893円、純資産総額4,151百万円で第8期決算を迎えることができました。ここに期中の運用状況等についてご報告申し上げます。

2008年のリーマンショックの荒波の中、運用をスタートし、2010年のギリシャショック、2011年のユーロ危機、2015年のチャイナショックと世界的にも大きな危機を乗り越えてきました。ひとえに、当ファンドを信じて、お金を託して頂いているお客様のお蔭であり、また世界中の企業が遅しく度々の危機を乗り越えてきたお蔭でもあります。

これからも、“予期せざる未知”に遭遇することはあると考えます。それでも、「よりよい社会にしたい」という人間の欲と行動でそれらを乗り越えていくはずです。

さあ、私たちも、今を遅しく、未来に向かって、進化していきましょう。

ファンド仲間の皆様からお預かりした大切なご資金は、選び抜いたファンドを通じて世界中の選び抜かれた企業に投資しています。

皆さまの資産形成のお役に立てるよう邁進してまいります。



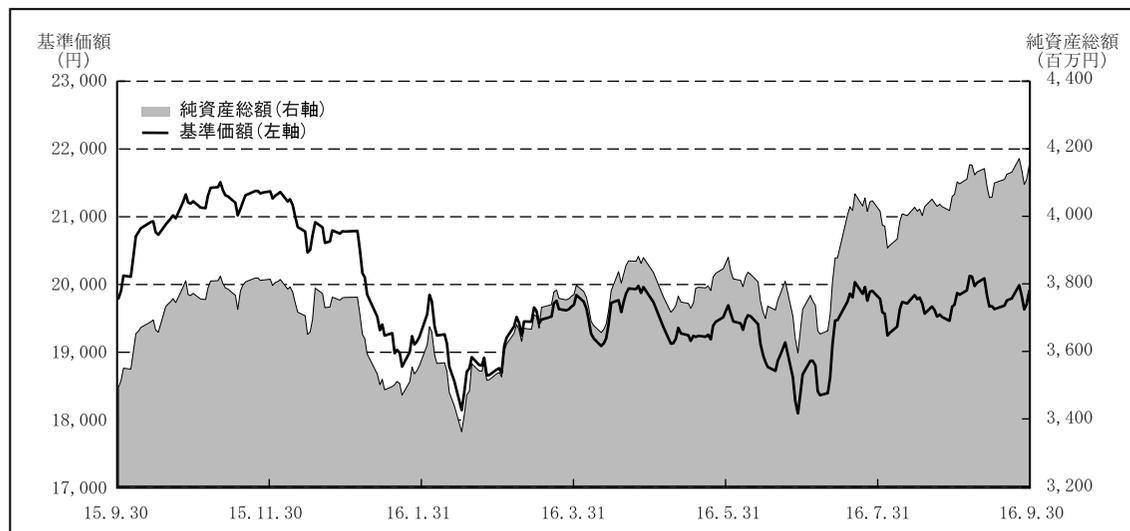
Union Asset Management Inc.
ユニオン投信株式会社

〒390-0815

長野県松本市深志一丁目1番21号

中田齒科ビル5F

■基準価額等の推移（2015年9月30日～2016年9月30日）



第8期首：19,779円

第8期末：19,893円

(既払分配金：0円)

騰落率：0.6%

(注1) 当ファンドは、主に国内外の株式に投資する投資信託証券に分散投資していますが、比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。基準価額がファンド運用の実質的なパフォーマンスを示しています。

(注3) 騰落率は、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

■基準価額の主な変動要因（第8期：2015年10月1日～2016年9月30日）

当期の株式市場は、世界的に見ますと全般に上昇しました。しかし、2016年に入ってから大幅な円高が進んだことにより海外株式の円換算評価額が目減りし、海外株式に投資している3本のファンドの基準価額を押し下げる要因となりました。

しかし、P6の図「組入ファンドと各市場の騰落率」にありますとおり、組み入れている4本のファンドは、いずれも市場の推移を上回り、当ファンドの基準価額の向上に寄与しました。主に銘柄選択が功を奏したことによるものです。

日本株に投資している「さわかみファンド」と、新興国株に投資している「ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA」は基準価額が上昇し、当ファンドにとってプラス要因となりました。

一方、「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ」および「ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007」は値下がりし、マイナス要因となりました。

また、当期は組入比率の変更もプラス要因となりました。P 6 の図「当期中の組入比率と基準価額の推移」にありますとおり、当ファンドは期初から組入比率を6割ほどに抑える慎重な運用を行ってまいりましたが、2016年6月後半以降の市況の悪化局面で大幅に買い増しを進め、組入比率を一時8割程度まで高めました。その後、株価が反発したことが基準価額の押し上げに寄与しました。

(注) 当交付運用報告書では、組入ファンドの名称を以下のとおり省略して記載することがあります。

- ・「さわかみファンド」 : さわかみF
- ・「キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ」 : キャピタルF
- ・「ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007 (適格機関投資家専用)」 : ハリスF
- ・「ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA (適格機関投資家限定)」 : コムジェストF

■ 1万口当たりの費用明細 (第8期: 2015年10月1日～2016年9月30日)

項目	当期		項目の概要
	金額 (円)	比率 (%)	
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	172 (107) (58) (6)	0.864 (0.540) (0.292) (0.032)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) その他費用 (その他)	3 (3)	0.014 (0.014)	(b) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 信託事務の処理に要するその他の諸費用
合計	174	0.878	
期中の平均基準価額は、19,864円です。			

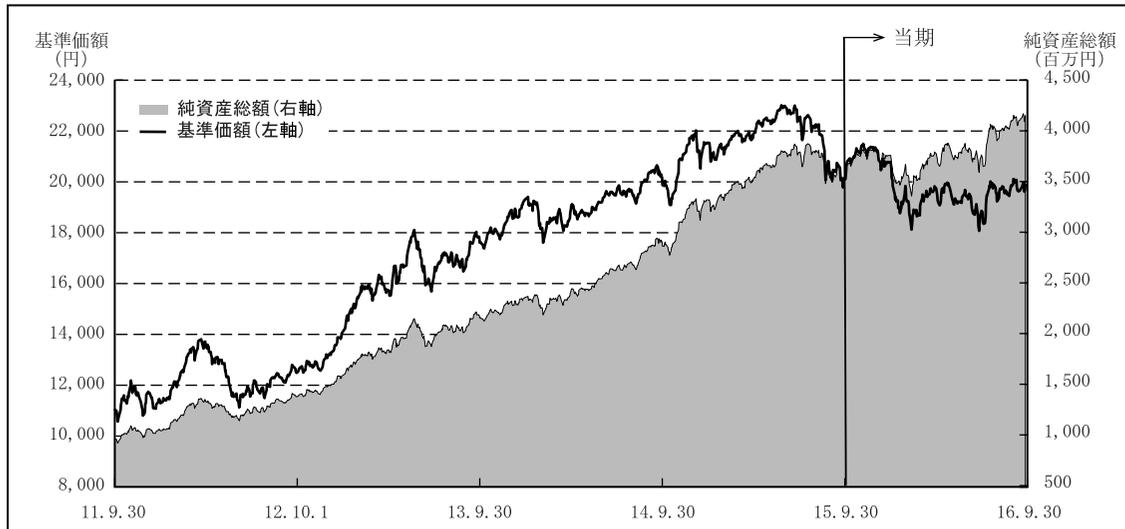
(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 各項目の費用は、当ファンドが組み入れている投資信託証券が支払った費用を含みません。当該投資信託証券の直近の計算期間における「1万口当たりの費用明細」が取得できるものについては、「組入ファンドの概要」に表示しています。

(注3) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額(各月末の基準価額の単純平均)で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位四捨五入で表示しています。

■最近5年間の基準価額等の推移（2011年9月30日～2016年9月30日）



	2011年9月30日 決算日	2012年10月1日 決算日	2013年9月30日 決算日	2014年9月30日 決算日	2015年9月30日 決算日	2016年9月30日 決算日
基準価額 (円)	11,038	12,529	17,852	20,291	19,779	19,893
期間分配金合計 (税込み) (円)	—	0	0	0	0	0
基準価額騰落率 (%)	—	13.5	42.5	13.7	△2.5	0.6
純資産総額 (百万円)	972	1,391	2,193	2,926	3,492	4,151

(注1) 比較できる適切な指数が存在しないため、ベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。

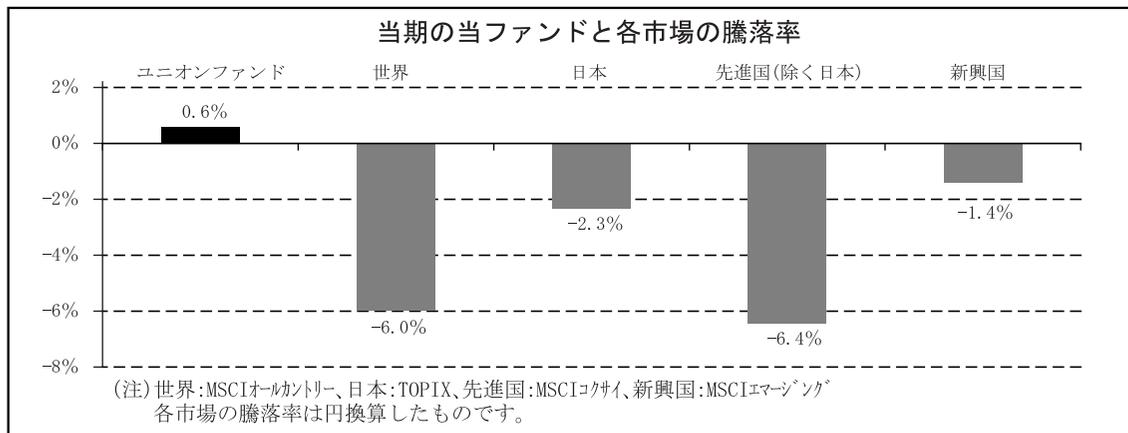
(注2) 当ファンドは分配を行っていないため、分配金再投資基準価額を表示していません。

(注3) 騰落率は小数点以下第2位四捨五入で、純資産総額は単位未満切捨てで表示しています。

■投資環境（第8期：2015年10月1日～2016年9月30日）

当期の株式市場は、2016年1月から2月にかけて下落したものの、その後、持ち直した結果、全体としては期首に比べてプラスで終わりました。一方、為替市場では主要通貨に対して大幅な円高となりました。

多くの国・地域で通貨の下落率が株価の上昇率を上回ったため、トータルした円換算の世界の株価は、次の図のとおり下落で終わっています。



以下、株式市場、為替市場のそれぞれについて推移をご説明します。

【株式市場の動き】

2015年8月に中国が人民元の切り下げを行いました。それによる市場の混乱が収まったことで、株価は期初から堅調に回復しました。ただ、①12月に米国が政策金利（FF金利）を引き上げたこと、②中国景気の急速な悪化懸念が広がったこと、③原油価格の大幅な下落を受けて産油国の財政が悪化し、それを補うために国外の株式を売却する動きが見られたこと、などにより、2016年1月から2月にかけて株価は世界的に下落しました。

しかしそこから持ち直しに転じました。世界の景気拡大ピッチはなかなか上がりませんが、そのことが世界的な金融緩和の継続につながり、株価を下支えしました。米国の利上げも、当初予想されていたよりゆっくりしたペースで進むと見られるようになり、安心感につながりました。

6月下旬には、英国が国民投票の結果EU（欧州連合）からの離脱を決めたことで株価は反落しました。しかし、金融緩和などの政策対応によって悪影響は広がらないとの見方から、7月以降、株価は上昇軌道に戻りました。

なお、新興国の株価は年初を底に回復しました。新興国の株価は、2010年をピークに先進国の株価から出遅れる状況が続いてきましたが、大きく方向転換したと見られます。資源価格の底打ち傾向や、いくつかの国でのインフレの鈍化、金融緩和への政策転換などが、堅調さを取り戻した背景です。

【為替市場の動き】

期初から2015年12月にかけては、米国の利上げで日米金利差が広がるのと予想から、若干の円安傾向で推移しました。しかし2016年に入りますと、一気に円高に転じました。きっかけの一つとなったのは中国の再度の元切り下げでした。中国経済の予想以上の悪化や、それが世界の景気に与える悪影響が懸念されるようになり、安全通貨と言われる円が買われる展開となりました。

1月には、日銀がマイナス金利を導入して金融緩和策をさらに強化する姿勢を見せました。しかし、米国の利上げが遅れるとの予想が強まったため、ドルを売って円を買う動きは止まりませんでした。原油価格の下落などにより日本の貿易赤字が黒字に転じたことも、円がほぼ独歩高となった一因でした。

新興国の為替は、全体として2016年1月あたりを底に反発し、期末まで対ドルで上昇傾向となりました。2011年から続いた大幅な下落傾向は転機を迎えたと思われます。対円では、中国の人民元が2割近い下落となりましたが、ここ数年で大幅安となっていたブラジルのレアルは8%近く値上がりしました。

■当ファンドの運用経過と結果

当期の世界の株式市場は、円換算でマイナスでしたが、当ファンドの運用実績は0.6%のプラスとなりました。

わずかながらもプラスとなった主な理由は、①投資先である4本のファンドがそれぞれの投資対象市場を上回ったこと、②当ファンドの組入比率の変更が奏功したこと、以上の二つです。

当ファンドは、世界の株価の長期的な成長を通じて基準価額の上昇を目指しています。なかでも新興国は、中長期的な経済成長に伴って企業業績も拡大していくとの予想に基づき、現在は相対的に高めのウェイトで投資を行っています。

当期は、新興国の株価、為替がともに2016年初めから立ち直ってきたことにより、新興国を主要投資対象としているコムジェストFは、さわかみFとともに基準価額が上昇しました。

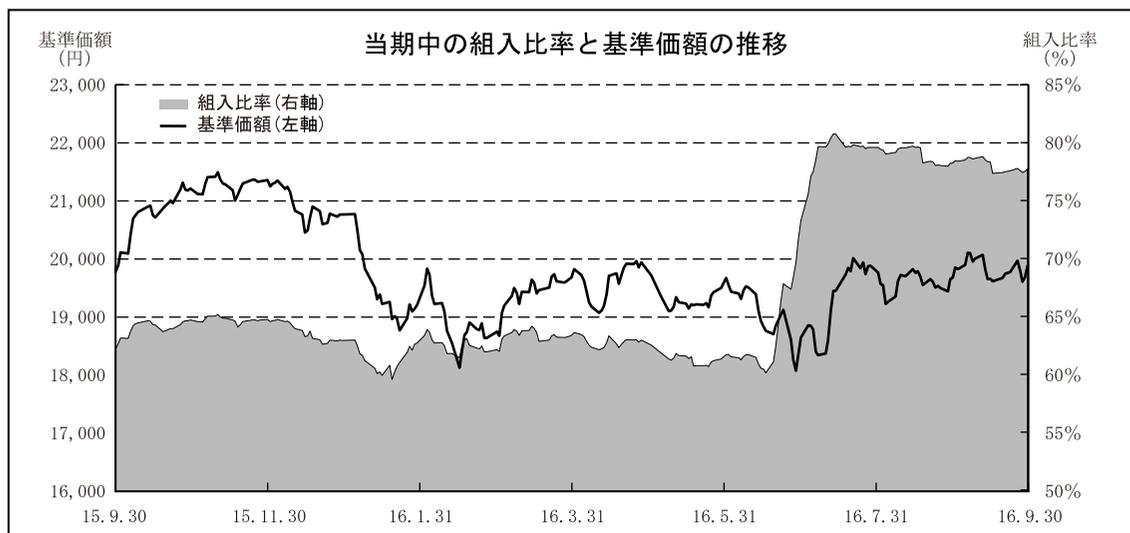
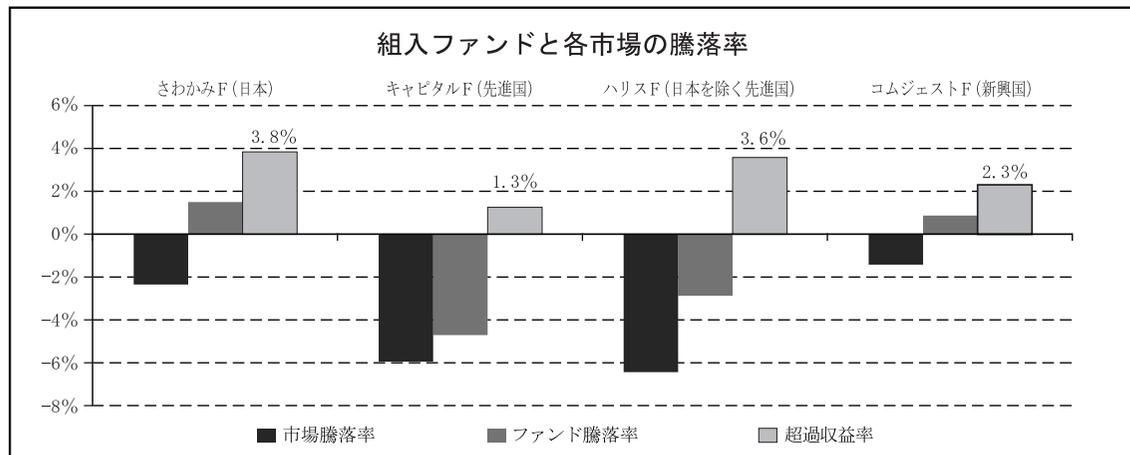
当ファンドは4本のファンドへの投資を当期も継続しました。地域に特化した専門性の高いファンドに投資することによって、中長期的に市場全体を上回る運用成績が残せると考えているためです。この4本のファンドは、次ページの図「組入ファンドと各市場の騰落率」にありますとおり、当期はいずれも市場を上回る成績を上げました。これは主として、各ファンドが独自の調査能力やノウハウを生かし、銘柄選択を行った効果によるものです。なお、ハリスFは、ここ数年市場の動きから出遅れていましたが、直近では市場の銘柄選好が同ファンドにとってプラスに変わったことから、大きく後れを取り戻しました。

当ファンドの特徴の一つは、株価が割高で下落リスクが大きいと思われるときは現金比率を引き上げる対応も行うことにしている点です。現在、世界経済は必ずしも順調に拡大している状況ではありません。米国の利上げによる影響のほか、中国では不良債権問題や景気の失速懸念、さらには資源価格の大きな変動など、不確実な要素をはらんでいます。こうした状況を考慮し、全体の組入比率は期初から抑え気味の運用を続けてきました。

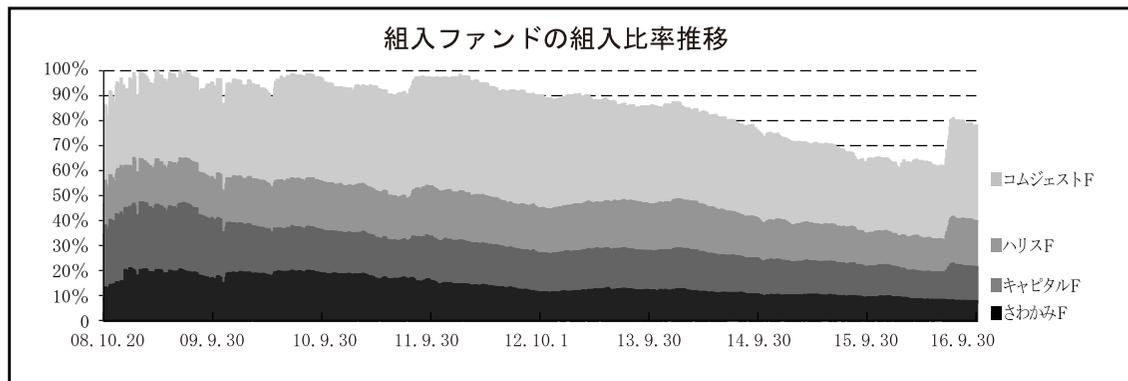
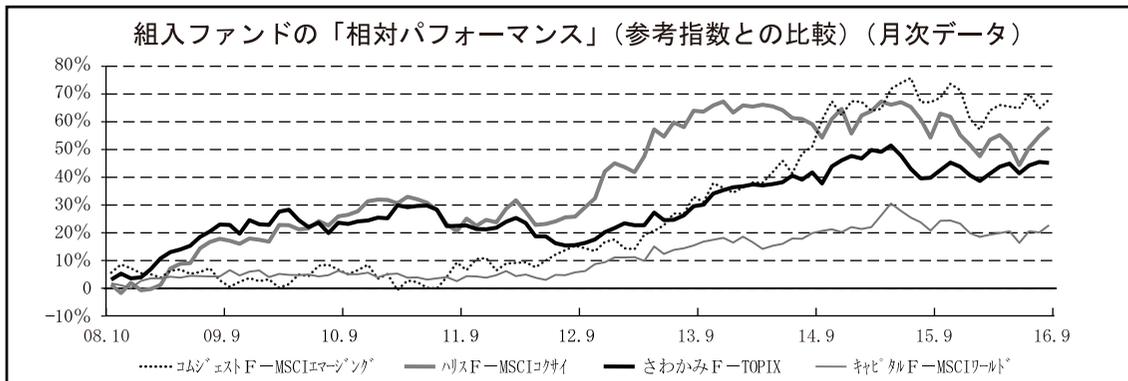
しかし、2016年の1月から2月にかけてと、6月下旬から7月にかけて、相場の下落が進んだ結果、株価の割安感が強まったと判断し、組入ファンドの買い増しを行いました。組入比率は期首の62.2%に対し、期末は77.8%へと高めています。次ページの図「当期中の組入比率と基準価額の推移」をご参照ください。

ちなみに、期末時点のファンド別組入比率は次のとおりです。

さわかみF 7.5%、キャピタルF 13.7%、ハリスF 18.5%、コムジェストF 38.1%



【参考情報】ユニオンファンド設定以来の組入ファンドの状況



■ベンチマーク

当ファンドは、比較できる適切な指数が存在しないため、運用の目標とするベンチマークを設けておらず、参考指数もありません。関連する主要な市場の騰落率は、P4の図のとおりですのでご参照ください。

■分配金

基準価額の水準、投資環境、運用の安定等を考慮し、当期は分配を行わないこととしました。

なお、収益分配に充てなかった利益については、特に制限を設けず、元本部分と同一の運用を行います。

分配原資の内訳（第8期：2015年10月1日～2016年9月30日）

（1万口当たり、税込み）

項目	当期
当期分配金 (円)	0
(対基準価額比率) (%)	—
当期の収益 (円)	—
当期の収益以外 (円)	—
翌期繰越分配対象額 (円)	10,378

(注1) 対基準価額比率は、当期分配金（税込み）の期末基準価額（分配金込み）に対する比率であり、ファンドの収益率とは異なります。

(注2) 当期の収益および当期の収益以外は小数点以下切捨てで表示しているため、その合計が当期分配金と一致しないことがあります。

今後の運用方針

当ファンドの基本的な運用方針は、第1に、企業の成長性という観点でより有利と思われる国や地域の株式の比重を高めた運用を行うこと、第2に、中長期的な利益成長力や株価の割安度から投資先の企業を厳選して運用する内外のファンドに投資すること、そして第3に、株価が割高な局面では組入比率を引き下げると同時に、中長期的に見て割安な局面では買い増しを進め、高めの組入比率を基本的に維持すること、という3点に集約できます。この方針は、お客様の長期的な財産形成に十分貢献できると考えていますので、今後も継続します。

第9期は、前期に続き、組入比率の引き上げを行っていく考えです。その理由について、市場の変化と当ファンドの運用目的という二つの観点で申し上げたいと思います。

まず、市場の変化ですが、前期に逆風となった為替相場は、円高に転換してからすでに1年近くが経過しており、今期は前期のような大きなマイナスにはならないのではないかと予想しています。為替市場の予想は極めて困難ですが、経済金融情勢などに十分留意して運用にあたっていきます。

また、前期から、組入ファンドの良さが発揮される方向に市場の動きが変わってきたこともプラス要素と見ています。P7の中段の図「組入ファンドの相対パフォーマンス」に参考として掲げていますが、ここ数年、各ファンドは総じて市場並みか、市場を下回る推移にとどまりました。しかし、ユニオンファンドの運用が始まった2008年10月からの通算で見ますと、いずれも傾向として市場を上回る運用成績を上げています。それは、各ファンドの銘柄選別の考え方が優れていることや、それを実施する調査・運用能力が高いことをよく示すものであると思います。前期には、4ファンドすべてが市場の動きを上回りました。このことは、市場の風向きが順風になり始めた兆しであると見ています。

こうした市場動向のプラス側への変化に加え、当ファンドの運用目的という点からも、組入比率を引き上げていく時期であると考えています。

当ファンドの目的は、中長期的にお客様の資産形成のお役に立つことにあります。市場には不測の事態が付き物ですが、経済の基盤が根底から覆されるようなことにならない限り、いずれは企業業績も株価も回復してくるものでもあります。リーマンショックは非常に大きな危機でしたが、その後、多くの株式市場が回復傾向を歩んできました。

よって、当ファンドの運用に当たりましては、市場を取り巻くリスクに最大の注意を払いつつも、中長期的な基準価額の上昇を目指すことが、あくまでも基本であると考えています。

ごく足元については、一部に割高な市場がありますので、やや慎重な運用を行っていく方針です。中国の景気や不良債権問題、米国の利上げの影響、欧州での政治・金融・景気動向などは、今後も市場を混乱させる要因になると考えられます。

しかし一方で、投資している企業の多くは着実に業績を拡大しており、上記のような懸念からむしろ割安に放置されている企業さえある状況です。こうした企業に投資している限り、一時的に市場が動揺することがあっても、大きな打撃にはならないと考えています。

そうした意味でも、当ファンドの目的に合い、かつ優れた運用を行っているファンドを組み入れていくことは非常に重要です。現在、新規に組み入れるファンドの検討をしていますので、今後詳細が固まり準備が整いましたら、お客様にご紹介していく予定です。

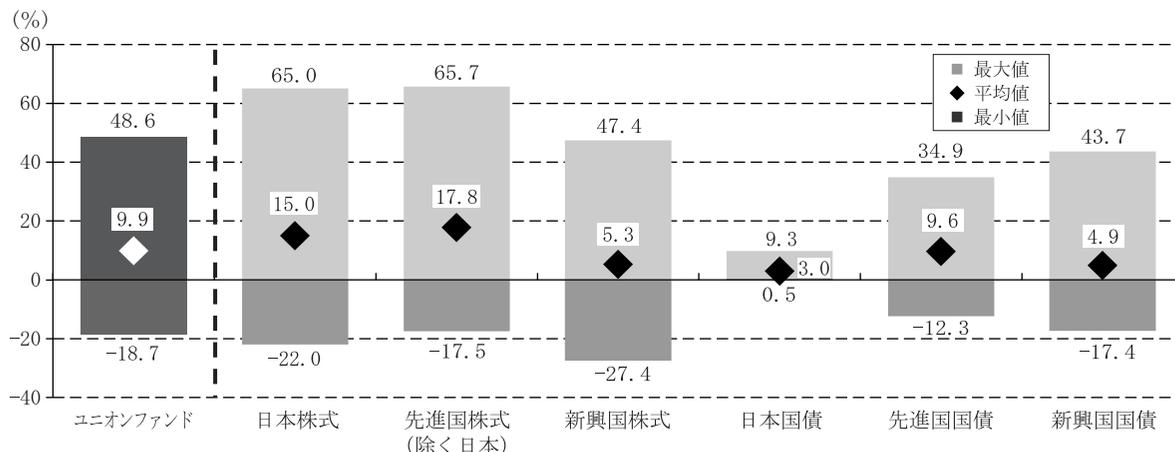
お知らせ

- ◎ 2015年12月19日付で、当ファンドの受益権の取得申込単位（収益分配金の再投資による場合を除きます。）を「委託会社または委託会社の指定する販売会社が1万円以下で定める金額以上1円単位」とする信託約款の変更を行いました。

当ファンドの概要

商 品 分 類	追加型投信／内外／株式
信 託 期 間	無期限 (信託約款所定の信託終了事由が生じた場合に償還されることがあります。)
運 用 方 針	個人家計の「資産形成」を支援する目的で、「期待収益率が高い」と思われる資産に積極投資をします。
主 要 投 資 対 象	主として国内外の有価証券に投資する投資信託証券を主要投資対象とします。
運 用 方 法	<p>①株式に特化します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期投資では「株式」が「債券」を上回るパフォーマンスをあげています。 ・今後も長期的には「株式」の収益率が「債券」の収益率を上回るものと考えます。 <p>②「グローバル」な視点で投資します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高成長が続く国・企業の株式は高いパフォーマンスをあげることが多いといえます。 ・「グローバル」に投資することで世界の経済成長を享受することができると考えます。 <p>③運用は「ファンド・オブ・ファンズ」形式で行います。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・複雑多様なグローバル投資においては、世界の地域ごとに特化した専門性の高い「複数のファンド」に投資する方が良好な収益をあげることができると考えます。 <p>④実績のある資産運用会社の「アクティブ」ファンドに投資します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・長期間にわたりインデックスを上回る「アクティブ」ファンドが、少数ですが世界に点在します。 ・投資に当たっては、「長期投資」の考え方が確立・実践されており、相対的パフォーマンスが良好なファンドを厳選します。 <p>⑤「バイ&ホールド」を基本としますが、割高時には現金比率を高め、割安時での買い増しにも備えます。</p>
分 配 方 針	<p>毎決算時、収益分配方針に基づいて分配を行います。分配金額は、委託会社が基準価額水準、市況動向等を勘案し決定します（分配を行わないことがあります。）。</p> <p>当ファンドは分配金再投資専用であるため、分配金は税金が差引かれた後、自動的に再投資されます。</p>

【参考情報】当ファンドと代表的な資産クラスとの騰落率の比較



- 2011年10月～2016年9月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の平均・最大・最小を、当ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

(注) すべての資産クラスが当ファンドの投資対象とは限りません。

- 各資産クラスの指数

日本株式 : TOPIX配当込み指数

先進国株式 : MSCI Kokusai (World ex Japan) Index

新興国株式 : MSCI EM (Emerging Markets) Index

日本国債 : NOMURA-BPI国債

先進国国債 : シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし円ベース)

新興国国債 : THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY index

(注) 海外の指数は、為替ヘッジなしによる投資を想定して、円換算しています。

- ※ 他の代表的な資産クラスの騰落率は、データソースが提供する各指数をもとに、株式会社野村総合研究所が計算しています。株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、その内容について、信憑性、正確性、完全性、最新性、網羅性、適時性を含む一切の保証を行いません。

また、株式会社野村総合研究所および各指数のデータソースは、当該騰落率に関連して資産運用または投資判断をした結果生じた損害等、当該騰落率の利用に起因する損害および一切の問題について、何らの責任も負いません。

THE GBI EM Global Diversified Composite unhedged JPY indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、J.P. Morgan Securities LLCに帰属します。

TOPIXに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は東京証券取引所に帰属します。

MSCI Indexに関する著作権、知的財産権その他一切の権利は、MSCI Inc. に帰属します。

シティ世界国債インデックスに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、Citigroup Index LLC に帰属します。

NOMURA-BPIに関する著作権、商標権、知的財産権その他一切の権利は、野村證券株式会社 に帰属します。

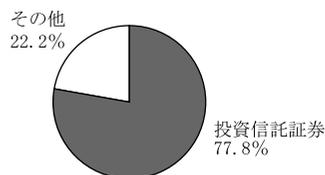
当ファンドのデータ

■組入資産の内容（第8期末：2016年9月30日現在）

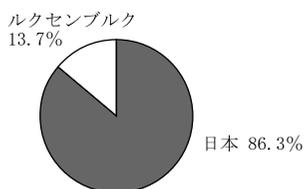
○ 組入ファンド

ファンド名	組入比率 (%)
ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA	38.1
ALAMCO ハリス グローバル バリュース株ファンド 2007	18.5
キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド (LUX) クラスZ	13.7
さわかみファンド	7.5

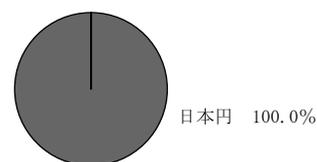
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

(注2) 各組入ファンドに関する詳細な情報等については、運用報告書（全体版）に記載されています。

(注3) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注4) 国別配分は、組入資産の発行国を表示しています。

■純資産等（第8期末：2016年9月30日現在）

項目	第8期末
純資産総額	4,151,846,453円
受益権総口数	2,087,134,430口
1万口当たり基準価額	19,893円

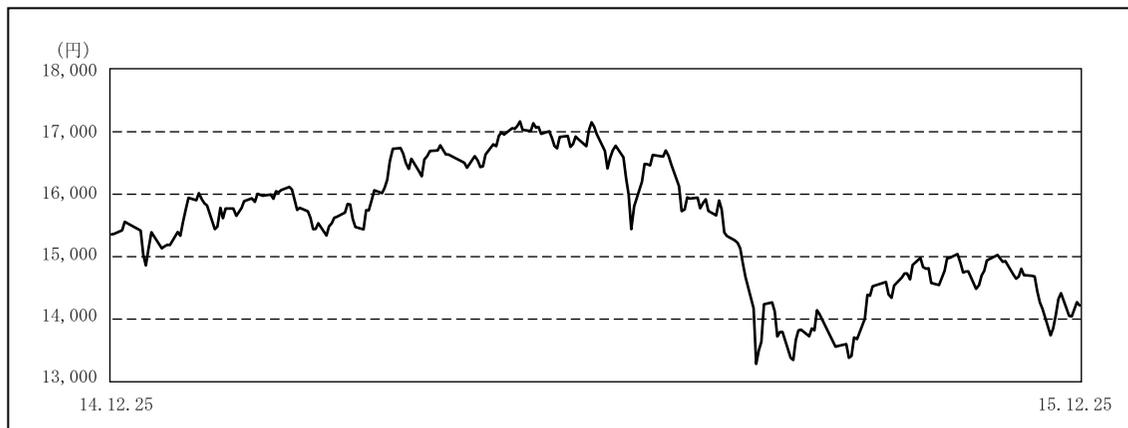
※ 第8期中における追加設定元本額は430,298,170円、同解約元本額は109,126,304円です。

■組入ファンドの概要

※ 各組入ファンドの概要は、当交付運用報告書作成時点において入手可能な直近計算期間に関する情報です。

1 《ニッポンコムジェスト・エマージングマーケット・ファンドSA（適格機関投資家限定）》

基準価額の推移（2014年12月25日～2015年12月25日）



1万口当たりの費用明細 (2014年12月26日～2015年12月25日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	167 (100) (50) (17)	1.080 (0.648) (0.324) (0.108)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	24 (24)	0.152 (0.152)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	10 (10)	0.064 (0.064)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他1) (その他2)	27 (20) (1) (2) (3)	0.176 (0.132) (0.008) (0.015) (0.022)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 外国株式に関する各種手数料等 (ADR手数料や税務代理人費用等) インド株式におけるキャピタルゲイン課税等
合計	228	1.472	
期中の平均基準価額は、15,499円です。			

(注1) 期中の費用 (消費税等のかかるものは消費税等を含む) は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 消費税は、当組入ファンドの期末の税率を採用しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものです。

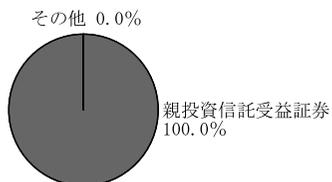
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額 (円未満の端数を含む) を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2015年12月25日現在)

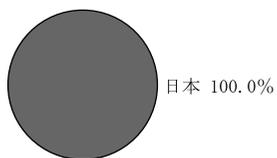
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ニッポンコムジェスト・エマージングマー ケッツ マザーファンド	日本	日本円	100.0
組入銘柄数					1銘柄

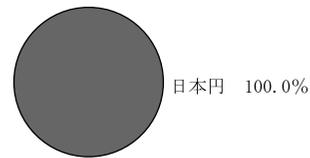
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

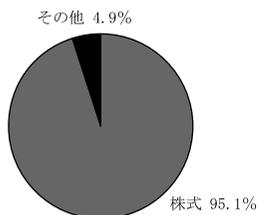
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2015年12月25日現在）

ニッポンコムジェスト・エマージングマーケッツ マザーファンド

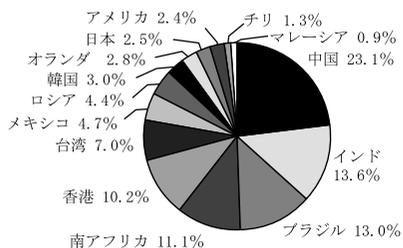
○ 組入上位10銘柄

種別	銘柄名	MSCI業種分類	国	通貨	組入比率(%)
1	株式 TAIWAN SEMICONDUCTOR-SP ADR	情報技術	台湾	米ドル	7.0
2	株式 CHINA LIFE INSURANCE CO-H	金融	中国	香港ドル	6.3
3	株式 CHINA MOBILE LTD	電気通信サービス	中国	香港ドル	5.5
4	株式 NETEASE INC ADR	情報技術	中国	米ドル	4.8
5	株式 INFOSYS LTD-SP ADR	情報技術	インド	米ドル	4.2
6	株式 PING AN INSURANCE GROUP CO-H	金融	中国	香港ドル	4.2
7	株式 CKH HOLDINGS	資本財・サービス	香港	香港ドル	4.0
8	株式 POWER GRID CORP OF INDIA LTD	公益事業	インド	インドルピー	3.6
9	株式 SANLAM LTD	金融	南アフリカ	南アフリカランド	3.6
10	株式 MTN GROUP LTD	電気通信サービス	南アフリカ	南アフリカランド	3.4
組入銘柄数					38銘柄

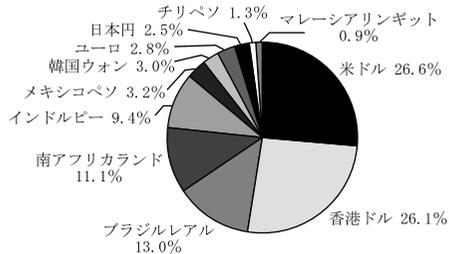
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



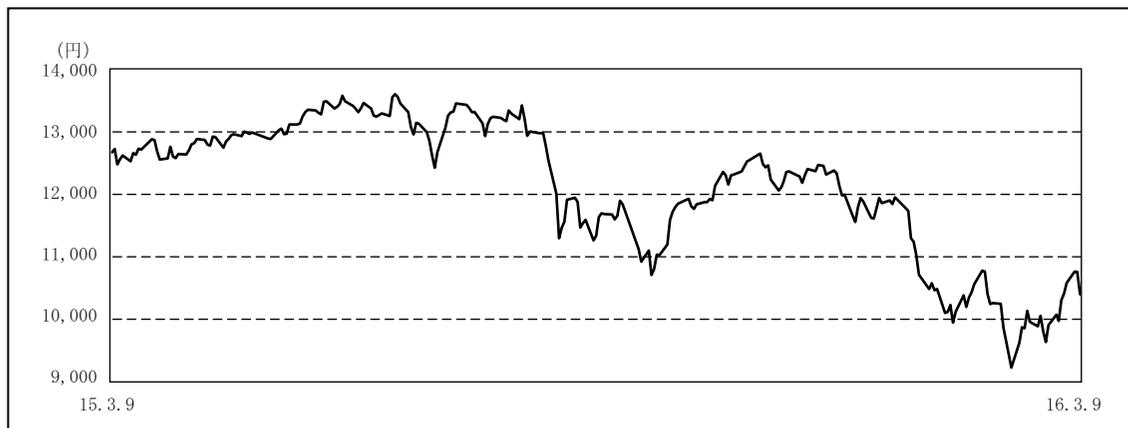
(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

(注3) 国は、基本的にMSCI分類を使用しています。

2 《ALAMCO ハリス グローバル バリューストックファンド 2007（適格機関投資家専用）》

基準価額の推移（2015年3月9日～2016年3月9日）



1 万口当たりの費用明細 (2015年3月10日～2016年3月9日)

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社) (販売会社) (受託会社)	170 (131) (29) (10)	1.404 (1.080) (0.238) (0.086)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価 各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価 運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式会社)	5 (5)	0.037 (0.037)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際に支払う手数料
(c) 有価証券取引税 (株式会社)	3 (3)	0.022 (0.022)	(c) 有価証券取引税＝期中の有価証券取引税÷期中の平均受益権口数 有価証券の取引の都度発生する取引に関する税金
(d) その他費用 (保管費用) (監査費用) (その他)	10 (10) (1) (0)	0.084 (0.079) (0.005) (0.000)	(d) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 海外における保管銀行等に支払う有価証券等の保管および資金の送金・資産の移転等に要する費用 監査法人等に支払うファンドの監査にかかる費用 信託事務の処理等に関するその他の費用
合計	188	1.547	
期中の平均基準価額は、12,127円です。			

(注1) 期中の費用(消費税等のかかるものは消費税等を含む)は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注3) 売買委託手数料、有価証券取引税およびその他費用は、当組入ファンドが組み入れている親投資信託が支払った金額のうち、当組入ファンドに対応するものを含みます。

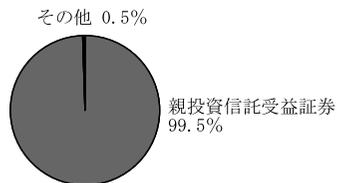
(注4) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額(円未満の端数を含む)を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位四捨五入で表示しています。

組入資産の内容 (2016年3月9日現在)

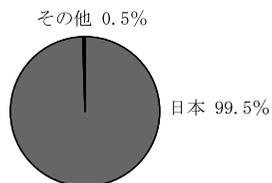
○ 組入銘柄

	種別	銘柄名	国	通貨	組入比率 (%)
1	親投資信託 受益証券	ALAMCO ハリス グローバル バリュース マザーファンド	日本	日本円	99.5
組入銘柄数					1銘柄

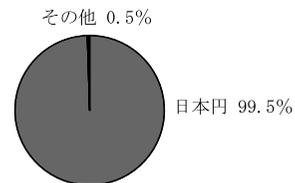
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

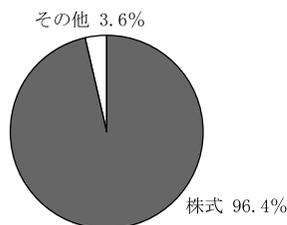
【参考情報】当組入ファンドが投資している親投資信託の組入資産の内容（2016年3月9日現在）

ALAMCO ハリス グローバル バリューストックマザーファンド

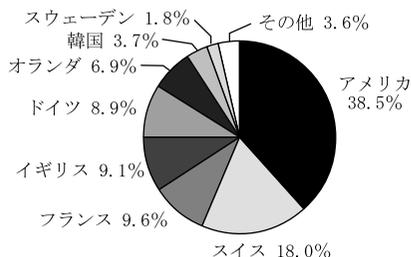
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	BNP PARIBAS	銀行	フランス	ユーロ	5.9
2	株式	GLENCORE PLC	素材	イギリス	英ポンド	5.3
3	株式	DAIMLER AG-REG	自動車・自動車部品	ドイツ	ユーロ	4.9
4	株式	CNH INDUSTRIAL NV	資本財	オランダ	ユーロ	4.6
5	株式	LAFARGEHOLCIM LTD	素材	スイス	スイスフラン	4.6
6	株式	CREDIT SUISSE GROUP AG-REG	各種金融	スイス	スイスフラン	4.5
7	株式	GENERAL MOTORS CO	自動車・自動車部品	アメリカ	米ドル	4.2
8	株式	AMERICAN INTERNATIONAL GROUP	保険	アメリカ	米ドル	4.0
9	株式	JULIUS BAER GROUP LTD	各種金融	スイス	スイスフラン	4.0
10	株式	ALLIANZ SE	保険	ドイツ	ユーロ	4.0
組入銘柄数						34銘柄

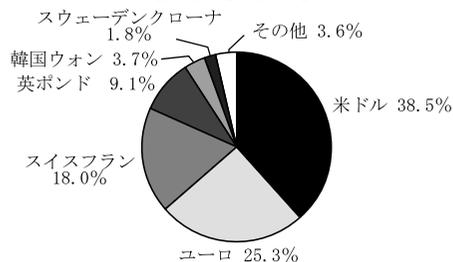
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】

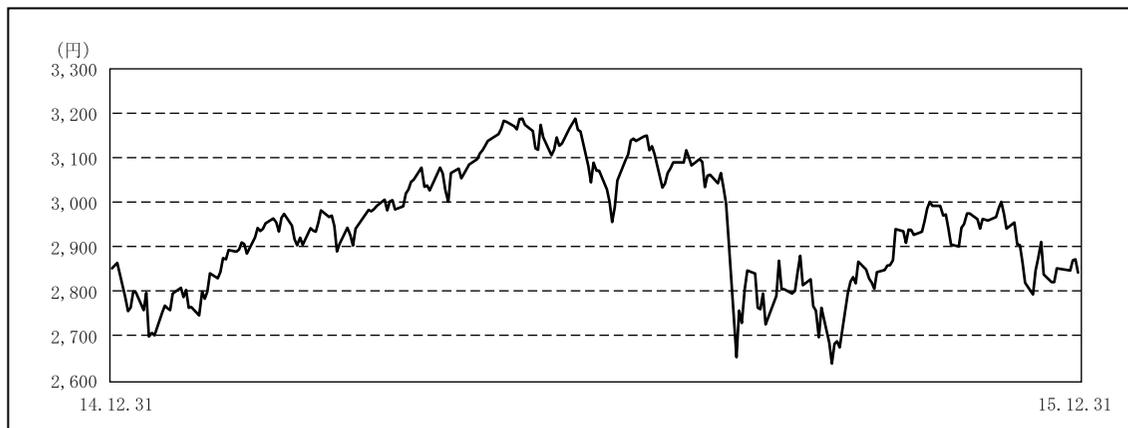


(注1) 比率は、当親投資信託の純資産総額に対する各評価額の割合です。

(注2) その他は、コール・ローン等、その他の資産（負債控除後）です。

3 《キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）クラスZ》

基準価額の推移（2014年12月31日～2015年12月31日）



1 万口当たりの費用明細（2015年1月1日～2015年12月31日）

情報が取得できないため記載していません。

ユニオンファンド

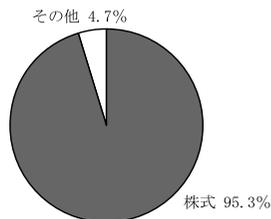
組入資産の内容（2015年12月31日現在）

※以下の組入資産の各内容は、キャピタル・グループ・グローバル・エクイティ・ファンド（LUX）全体のものです。

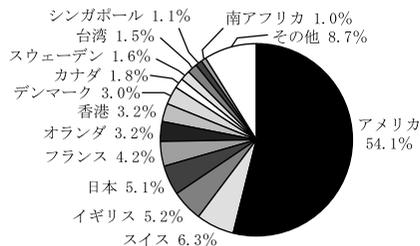
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種等	国	組入比率 (%)
1	株式	Novo Nordisk A/S 'B'	ヘルスケア	デンマーク	3.0
2	株式	Microsoft Corp.	情報技術	アメリカ	2.7
3	株式	Goldman Sachs Group, Inc. (The)	金融	アメリカ	2.4
4	株式	Incyte Corp.	ヘルスケア	アメリカ	2.4
5	株式	Alphabet, Inc.	情報技術	アメリカ	2.2
6	株式	Visa, Inc. 'A'	情報技術	アメリカ	1.8
7	株式	AIA Group Ltd.	金融	香港	1.7
8	株式	Unilever NV, CVA	生活必需品	オランダ	1.5
9	株式	Taiwan Semiconductor Manufacturing Co. Ltd.	情報技術	台湾	1.5
10	株式	Amazon.com, Inc.	一般消費財・サービス	アメリカ	1.5
組入銘柄数					164銘柄

【資産別配分】



【国別配分】



(注1) 比率は、純資産総額に対する各評価額の割合です。

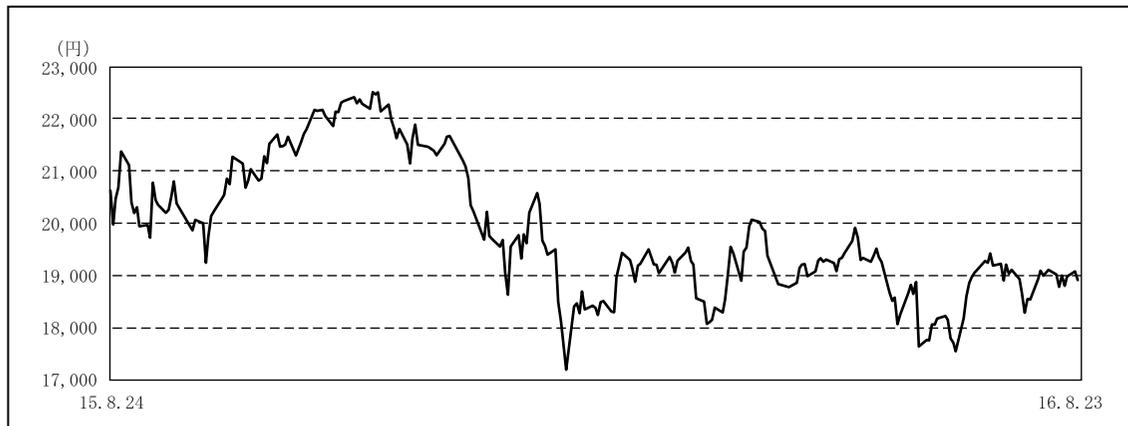
(注2) 同一会社の株式は、それぞれまとめて1銘柄として組入比率および組入銘柄数を表示しています。

(注3) 現金、その他の資産等は、その他に含めて表示しています。

(注4) 通貨別配分は、情報が取得できないため記載していません。

4 《さわかみファンド》

基準価額の推移（2015年8月24日～2016年8月23日）



1万口当たりの費用明細（2015年8月25日～2016年8月23日）

項目	金額 (円)	比率 (%)	項目の概要
(a) 信託報酬 (委託会社)	213 (117)	1.077 (0.592)	(a) 信託報酬＝期中の平均基準価額×信託報酬率 委託した資金の運用の対価
(販売会社)	(75)	(0.377)	交付運用報告書等各種書類の送付、口座内でのファンドの管理、購入後の情報提供等の対価
(受託会社)	(21)	(0.108)	運用財産の管理、委託会社からの指図の実行の対価
(b) 売買委託手数料 (株式)	1 (1)	0.003 (0.003)	(b) 売買委託手数料＝期中の売買委託手数料÷期中の平均受益権口数 有価証券等の売買の際、売買仲介人に支払う手数料
(c) その他費用 (その他)	0 (0)	0.001 (0.001)	(c) その他費用＝期中のその他費用÷期中の平均受益権口数 金銭信託にかかる手数料等
合計	214	1.081	
期中の平均基準価額は、19,808円です。			

(注1) 期中の費用（消費税等のかかるものは消費税等を含む）は、追加、解約によって受益権口数に変動があるため、簡便法により算出した結果です。

(注2) 金額は、項目ごとに円未満四捨五入で表示しています。

(注3) 比率は、1万口当たりのそれぞれの費用の金額を期中の平均基準価額で除して100を乗じたもので、項目ごとに小数点以下第4位四捨五入で表示しています。

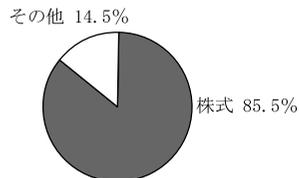
ユニオンファンド

組入資産の内容 (2016年8月23日現在)

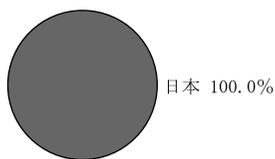
○ 組入上位10銘柄

	種別	銘柄名	業種	国	通貨	組入比率 (%)
1	株式	ブリヂストン	ゴム製品	日本	日本円	3.9
2	株式	トヨタ自動車	輸送用機器	日本	日本円	3.7
3	株式	日本電産	電気機器	日本	日本円	3.6
4	株式	ダイキン工業	機械	日本	日本円	3.2
5	株式	花王	化学	日本	日本円	3.1
6	株式	TOTO	ガラス・土石製品	日本	日本円	2.9
7	株式	浜松ホトニクス	電気機器	日本	日本円	2.7
8	株式	国際石油開発帝石	鉱業	日本	日本円	2.5
9	株式	テルモ	精密機器	日本	日本円	2.4
10	株式	信越化学工業	化学	日本	日本円	2.4
組入銘柄数				99銘柄		

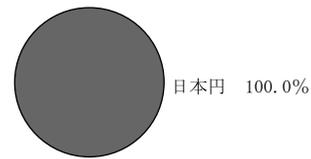
【資産別配分】



【国別配分】



【通貨別配分】



(注1) 比率は、当組入ファンドの純資産総額に対する各評価額の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

(注2) その他は、現金・預金・その他の資産（負債控除後）です。

【参考情報】直接販売の状況

当期末の全口座件数は、2,926件（前期末比+276名、+10.4%）になりました。

また、「定期定額購入サービス」ご利用のお客様件数は、全体の76.2%にあたる2,231件（前期末比+174件、+8.5%）になりました。

全口座のうち、残高のある口座の比率も、88.3%と引き続き高い水準を保っています。

このように定期定額購入サービスの利用率が極めて高いことが、弊社の特徴であり、強みでもあります。定期定額による購入額も順調に伸びてきており、当期は、ボーナス時期でもある2016年7月に7,000万円を超え、期中の月平均でも5,500万円に迫ってきました。このファンド仲間の皆様からのぶあつい定期定額マネーは、当ファンドの運用に安定感をもたらしてくれます。

資金流入につきましては、8億4,305万円の資金流入（買付）に対して、2億1,789万円の資金流出（解約）で、6億2,516万円の純流入となりました。株式市場は、イギリスのEU離脱決定や米国の利上げ警戒などで不安定でしたが、皆様からの不安の声は少なく、定期定額購入を継続しつつも、下げ相場でしっかりとスポット購入される方が増えてきました。結果、安定した資金流入に支えられ、当期末（2016年9月30日）のユニオンファンドの純資産総額は41億5,184万円（前期末比+6億5,895万円、+18.9%）となりました。

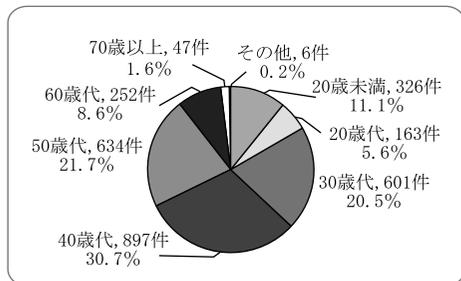
弊社は、働く仲間とその家族の方々の資産づくりのお手伝いをさせて頂くべく設立された資産運用会社です。ファンド仲間の皆様一人一人が、自分らしい人生を過ごすための一助を担うことができるのであれば、これほど幸せなことはありません。

主にセミナーや個別相談等のFace to Faceの活動を中心に「生涯投資」・「グローバル投資」・「積立投資」の有効性や魅力、そして、これからの明るい未来のために、自らの意志で自らのお金を世の中に活かすことの大切さをご説明しており、弊社の経営理念や運用哲学にご賛同いただいたお客様がゆっくりではありますが、着実に増え続けています。

これからも、ユニオンファンドは、ファンド仲間の皆様の“生涯投資の道”の頼もしいパートナーであるべく丁寧に丁寧に運用して参る所存です。

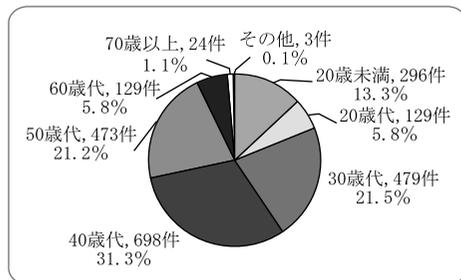
（注）各金額、件数は単位未満切捨てで、比率は小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

年代別口座数（2016年9月30日現在）



（注）比率は、全口座数に対する各年代の口座数の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入利用者数（2016年9月30日現在）



（注）比率は、全利用者数に対する各年代の利用者数の割合で、小数点以下第2位四捨五入で表示しています。

年代別定期定額購入1回当たりの平均引落額（2016年9月30日現在）

年代別引落額平均（月次）（単位：円）			
20歳未満	10,059	50歳代	34,245
20歳代	19,772	60歳代	37,416
30歳代	24,053	70歳以上	47,777
40歳代	26,505		

（注）1回当たりの平均引落額は、次の式で算出し、円未満切捨てで表示しています。

（当該年代の毎月の契約金額の合計×12+当該年代の増額月の契約金額の合計）÷12÷当該年代の利用者数